

第2回多治見市かわまちづくり協議会議事録

(要点筆記)

- 開催日時 令和3年6月29日(火) 午前9時30分から午前11時32分まで
- 開催場所 現地及び多治見市産業文化センター 3階大会議室
- 議 事
1. あいさつ
 2. 新委員の委嘱及び紹介
 3. 議題 (1) 多目的広場の活用方法について
(2) 多治見かわまちづくり計画策定に向けたニーズ把握調査(WEB アンケート)について
 4. その他
- 会議の公開 多治見市情報公開条例(平成9年条例第22号)第23条の規定により公開
- 出席委員 山本 真行、水野 利之、水野 高明、村手 洋之、佐藤 円一郎、木本 真義、若尾 茂希、岩塚 慎二、加藤 敬次、飯田 道広、樫野 誠、竹原 雅文、知原 賢治、長江 信行 (敬称略)
- 事務局 多治見市建設部道路河川課・経済部産業観光課
国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所調査課

発言者	発言内容
１．あいさつ	
多治見市建設部 渡辺課長	４月より建設部の課長として、かわまちづくりの事務局を担当している。本日見ていただいた多目的広場を人々が集い、魅力的な空間となるよう努めていきたい。
庄内川河川事務所調査課 佐伯課長	多治見市かわまちづくりとして是非、市民が主体となり盛り上げていただきたいというのが庄内川河川事務所としての思いである。多目的広場はかわまちづくりの核となる場所であり、社会実験などの活用イメージを膨らまして、アイデアを出してほしい。
２．新委員の委嘱及び紹介	
事務局	人事異動により、庄内川河川事務所副所長の日置委員から同じく副所長の竹原委員に、岐阜県多治見土木事務所河川砂防課長の小原委員から今尾委員に交代された。 本来なら、ここで市長より委嘱状を渡すべきだが、他の公務のため、委嘱状を机上に配布させていただいた。
３．議題（１） 多目的広場の活用方法について	
事務局	（社会実験の事例について事務局から説明）
委員長	先ほど、現地を視察したことを踏まえ、多目的広場を整備するにあたってのアイデアや、多目的広場で行う社会実験について、意見を聞きたい。
委員	初めて現地を見たが、本日は川の水量が多かった。釣りをはじめ、ミニラフティングでの川下り等、川遊びができる空間として活用できる。ただ、水深が深いので、安全性には留意が必要だが、現在の子どもは川で遊ぶ機会が少ないため、流れがあるところで泳ぐ経験ができるとよい。
委員	現地のアクセス路が袋小路になるため、イベント開催時には出入りによる渋滞が予想される。また、本日は水量もあり、流れがあって少し怖いと感じたため、安全面の留意が必要である。
委員	子どもの頃、ねずみ岩でよく遊んでいたが、今日改めて見て、広いと感じた。虎渓用水広場との住み分けが必要だが、前回提示された整備後のイメージをベースに考えると、アウトドア、ソフトラフティングがよいと思う。子どもの頃や大人になってからの夜のキャンプファイヤーがよい思い出である。火には癒しや憩いの効果があるので、例えば、夜のキャンプファイヤーデッキ等、夜の顔が作れると面白い。

委員	同じく現地は広いと感じた。アウトドア、バーベキュー、キャンプが想定されるが、駐車場の確保が課題である。また、周辺に大規模商業施設の開設予定もあるので、道路渋滞がひどくなることが予測される。駐車場などを確保すると、利活用できる空間がどこまで残せるかも課題である。 また、陶器のまちとして、作陶体験などを兼ね備えるとよい。
委員	アウトドア系も良いが、陶磁器のまちという特色を生かし、体験をはじめ、市の経済活性化にもつながる取組みができるよい。 例えば、土岐市の花火大会では、自分でつくった作品を河原で焼くということを行っていた。構想段階で多治見らしさを活かす取組みを入れられるよい。
委員	進入路部分が市道ではないため、用地を確保し、多目的広場に駐車場を確保することを検討している。また、記念橋の手前まで遊歩道が整備されているので、遊歩道を延伸したい考えである。 車での利用だけでなく、サイクリングや散策での利用を促したい。多治見まちづくり株式会社と連携し、多治見駅周辺から人を呼び込んでいけるとよい。 また、周辺店舗とも連携し、地元経済にもつながることができるという。
委員	現地は砂浜もあり、環境が良いと感じた。バーベキューなどができると良い。りばーびあで行うEポート体験のロングコースの乗船場とする他、川沿いの散策ルートとして、修道院や永保寺までつなげていけるとよい。
委員	特に子ども向けに実施できるとよい。かつてこの地には料亭があり酒宴を楽しんだ地でもあり、食をテーマにまちづくりに取り組むことも考えられる。川でしかできないこと、川でもできること、川でやってみたら面白いことなどの観点から考えていくと方向が定まり、面白いことができる。 遊歩道の安全確保のため、転落防止柵の設置が想定されるが、河川区域内では度々、洪水時に破損するため、予算も必要となる。楽しみと共に、災害に強いということを考えなくてはならない。
委員	現地を見て実際の感覚をつかめたので良かった。サンデーマーケットの取組みを始める際に、全国の様々な取組みを見てきたが、取組みの継続性のためには、事業として収支が取れることが

	重要であると感じている。単にバーベキューのインフラ整備をするだけではなく、アウトドアを手掛ける企業等と連携できるとよい。実際にキャンプをしようと思うと現地の傾斜が大きいので、何らかの手を入れていく必要がある。
委員	5月の大雨の際には、多目的広場予定地の半分ぐらいが水に浸かった。浸水することを考慮すると、実際には1/3ぐらいまでが活用可能な範囲かと思う。 紹介事例のフットパスのように、修道院や永保寺までをつなげて考え、多目的広場を中継地として利用し、多治見の魅力を発信する取り組みができるよい。環境としてはとても静かであり、のんびり過ごすには良い場所である。
委員	記念橋まで遊歩道が整備されているため、上流に向けて遊歩道の延伸ができると、多治見駅から永保寺までウォーキングコースとして繋げていくことができる。多治見市民は日頃から土岐川と親しみ、よくウォーキングしている。キャンプ場なども良いが施設をつくと維持が大変である。また、アクセス路や駐車場の問題が残る。地元の経済活性化の観点を含め、地元住民の意見を踏まえながら、よいものを作っていきたい。
委員	(ミズベリングのコンセプト動画紹介、ミズベリング・プロジェクト事務局資料について説明) 現場を見て様々な可能性を感じた。天候によっては、水難事故などに留意しなければならない。継続性の観点も重要であり、河川敷地占用許可準則の改正により、一定のルールをクリアすれば営業活動が可能である。多治見駅の虎渓用水広場のような水の流れる空間でのビアガーデン等は雰囲気が良い。こういった取り組みは、ボランティアで実施してしまうと後々続かないため、指定管理者制度の活用など、継続的に取り組める仕組みが重要である。
副委員長	紹介事例のように、1つのプログラムだけではなく、複数のプログラムを組み合わせることも想定される。現在、土岐川観察館の社会実験として、7月に子供の釣り大会を予定しており、11月に大人向けの散策会で土岐川を紹介する予定である。 参加者からはトイレや手洗い等の意見が出ると想定されるが、想定で考えるより、実際に使ってみると分かることがあると思う。社会実験を踏まえて、次に活かしていきたい。

4. 議題(2) 多治見かわまちづくり計画策定に向けたニーズ把握調査（WEBアンケート）について	
事務局	(ニーズ把握調査について事務局から説明)
委員長	ニーズ把握調査に対する質問・意見を求める。
委員	特に質疑なし。
5. その他	
庄内河川事務所	(土岐川豊岡地区における築堤護岸工事について説明)
事務局	(今後の予定について事務局から説明)
委員長	第2回多治見市かわまちづくり協議会を終了する。